

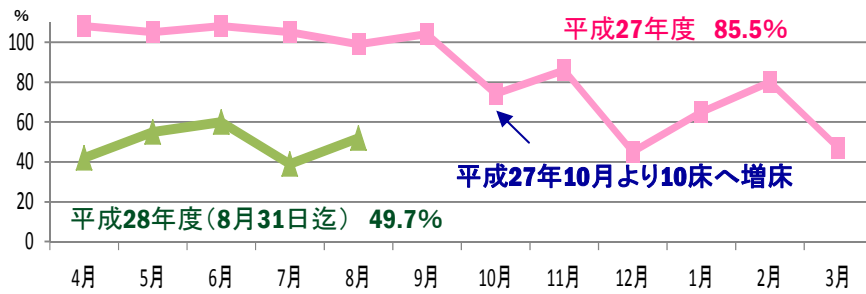
ひらか 連携ニュース

当室では、年1回、共同利用施設運営委員会を開催し、オープンベッドやMRI等の高度医療機器の効率的な活用や病診連携の推進について検討を重ねています。昨年度の委員会にてオープンベッドを増床いたしました。今年度、稼働率が低下したため、今後の運用上の課題について協議を行いました。今回は、オープンベッドの運用状況についてご報告いたします。

共同利用施設運営委員会の報告

日 時：平成28年9月30日
 場 所：横手シャイニーパレス 5F
 参加者：横手医師会長・副会長・横手医師会運営委員3名、横手市健康福祉部長、平鹿総合病院関係者17名 計23名
 協議事項：共同利用施設の運用状況について

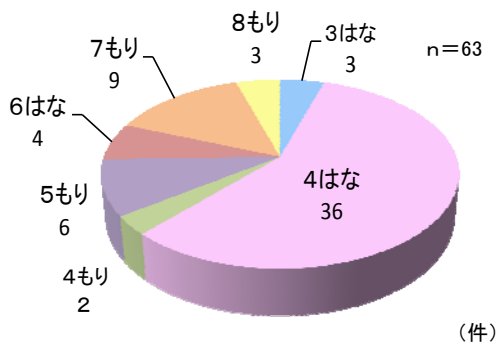
1. オープンベッドの稼働率の推移



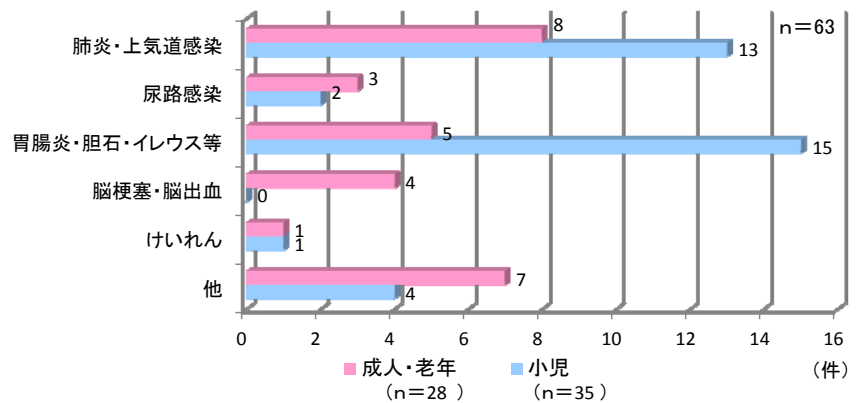
<稼働率が低下した要因>

- 10床となり、計算式の分母が大きくなった。
- 昨年度より、小児科の紹介が半減した。
- 重症で、急変の可能性が高い患者が増加しており、利用の判断が難しい。
- 紹介入院の患者を連携室で把握できないケースがあり、かかりつけ医への利用の相談が遅れる。

2. 申し込み件数(病棟別)…平成28年度(8月31日迄)



3. 申し込み回数(疾患別)…平成28年度(8月31日迄)



4. オープンベッドに対するご意見

	登録医	当院医師
1. メリット	・処置・処方内容の確認ができ、治療方針を一致できる。	・入院前の在宅での様子や入院後の経過をその都度共有できる。
2. デメリット	・時間が取れない。	・時間を合わせることが難しい。
3. 情報共有したい内容・時期	・退院時に治療経過や再入院の可能性 家族への説明など情報交換したい。	・退院後の栄養管理について検討したい。 ・退院調整等で情報を共有したい。
4. 今後の利用について	・積極的に利用したい。	・多忙ではあるが、win-winのメリットがあるので、協力したい。